

あなたと議会をむすぶ

議会広報

平成28年2月
第145号

あじがさわ

発行…青森県鰺ヶ沢町議会 〒038-2792 青森県鰺ヶ沢町本町209-2 編集…議会広報編集委員会 ☎0173②2111(代)

この広報紙は再生紙を使い、議員の自主編集で発行しています。



1月10日（日）、舞戸地区町内会連絡協議会主催の「2016舞戸地区新春ふれあい広場」が舞戸公民館で開催されました。この日は、舞戸保育所、舞戸小学校三味線部によるアトラクションのほか、餅つきやビンゴゲーム、くじ引きなどの催し物を楽しみ、会場に集まった人たちは新春の喜びを存分に味わっていました。

写真① 舞戸保育所の子どもたちによるお遊戯

写真② 地区内から約300人が集まり、楽しいひとときを過ごしました。

12月
定例会号

- 2 12月定例会のあらまし
- 3 総括質疑 農業委員会委員の選考法は
- 4 議長知事へ要望・坂牛議員感謝状受領
- 5～8 一般質問（4議員）
- 9 夜間議会アンケート紹介 ～議会改革特別委員会～
- 10 四年間を振り返って ～広報編集委員会～

平成27年12月議会

12月4日～12月9日



12月定例会の初日、東條町長の提案理由を聞く議員

町特別職等の給与一部改正条例を可決

町長の給料月額を引き続き1年間30%減

主な増額補正は次のとおり。

- ・光ファイバケーブル移設事業 400万円
- ・あじがさわ未来応援基金積立 2000万円
- ・あじがさわ未来応援基金 2959万円
- ・障害福祉サービス費 2200万円
- ・施設給付費等負担金 6806万円

◎町議会の議決すべき事項を定める条例の制定

定住自立圏形成協定の締結等に関する事項を議会の議決事件とするもの。

◎町農業委員会の選挙による委員の定数条例の廃止

農業委員会の委員の選出方法について、公選制が廃止されたことから条例を廃止するもの。

◎町農業委員会委員定数条例の制定

町農業委員会委員の定数を定めるもの。(定数は14人)

◎町農業委員会委員選考委員会設置条例の制定

町農業委員会委員選考委員会を設置するもの。(定数は10名以内、任期3年)

◎町農業委員会農地利用最適化推進委員定数条例の制定

農地利用最適化推進委員の定数を定めるもの。(定数は11人)

◎町税条例等の一部改正

地方税法等の一部を改正する法律及び地方税法施行規則等の一部を改正する省令が公布・施行されたことによるもの。

◎青森県西北五地方視覚教育協議会の廃止について

五所川原市、つがる市、鯉ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町を構成市町として共同で設置する同協議会を廃止するもの。

◎町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 3328万円

◎町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 363万円

◎町農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 102万円

◎町水産業振興事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 79万円

◆意見書

若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書 (可決)

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

農地利用最適化推進委員の定数を定めるもの。(定数は11人)

町長の支給月額は、49万4900円(本来の支給額は70万7000円)。減額期間は、平成28年1月1日から平成28年12月31日まで。

◎町税条例等の一部改正

地方税法等の一部を改正する法律及び地方税法施行規則等の一部を改正する省令が公布・施行されたことによるもの。

◎町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 3328万円

◎町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 363万円

◎町農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 102万円

◎町水産業振興事業特別会計補正予算(第2号)

補正額 79万円

◆意見書

若い人も高齢者も安心できる年金を求める意見書 (可決)

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

平成二十七年第四回定例会(十二月議会)が十二月四日から十二月九日までの日程で行われました。

四日の開会日には、去

る十一月二十七日にご逝

去された故見崎清議員の

ご冥福を祈り黙祷を捧げ

た後、町長の給料月額を

臨時的に減じる特別措置

を継続する条例の一部改

正案などの議案18件、議

員発議として提出された

意見書案1件が上程され

ました。

八日には一般質問が行われ、鶴田議員、長谷川議員、一戸議員、今議員の四名が町政における諸問題について町側に対し答弁を求めました。

最終日の九日には、総

括質疑、討論、採決が行

われ、審議の結果、上程

された議案並びに意見書

案は、原案どおり全会一

致で可決されました。

十二月定例会に上程さ

れた主な議案及びその内

容は、次のとおりです。

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

◎町一般会計補正予算(第5号)

◎町一般会計補正予算(第5号)

義が希薄となり廃止。

総括質疑

農業委員会委員の選考法は 答へ町長の求めに応じ選考委員会を設置

総括質疑が十二月九日の最終日に行われ、農業委員会委員定数条例等に関連し、議員から町に対していくつかの質疑がありました。その内容についてお知らせします。

齋藤孝夫議員 定数14人
に関して、今までは公職選挙法のほかに各農協、共済組合、議会推薦という枠もありました。

この枠に関してはどのようになるのかお知らせください。



齋藤孝夫議員による質疑

現在想定しているところでは、学識経験者数名、各町内会長の代表者数名、農業委員の経験者若しくは農業委員会事務局長経験者OB等を含め、多くても10名以内を考えており、町長からの委嘱状を予定しています。

齋藤孝夫議員 町長の委嘱状によって、選考委員が決まる訳です。私が敢えて言うべきものではないかもしれませんが、いろいろな人材の見る角度によつて良い人悪い人があると思います。町長が最終的な選任者であれば、広範囲な町でもあり、農業が盛んなところ、農業委員がいなければならぬ地域もありますので、町長に関しては、公平なものを見方ができるような人材を選んでほしいと思います。町長その辺

の考えはいかがですか。東條町長 広範囲をもって選考したいと思っております。

齋藤孝夫議員 農地利用推進委員の定数が11人とありますが、これは今まで農業委員の中でそういう人たちがいたと思っていましたが、これは農業委員以外に11人ということなので、農業委員会事務局長、農業委員の14人とは全く別枠で推進委員を新たに11名選出するということがございます。

齋藤孝夫議員 総勢で25名ということで人材を選ぶのにも大変なことだと思います。先ほども話しましたが、やっぱり広域的な公平な選任を改めて町長にお願いしておきたいと思えます。

総務課長 議会推薦、農協等々の推薦枠は今回の農業委員会の法の改正により、平成28年4月1日以降になります。現在の委員の任期が5月12日までですので、それまでの残任期間となりますので報告いたします。

齋藤孝夫議員 農業委員会を決めるのは、選考委員会をもって選任していくということですが、その選任委員を指名する権限はどこにあるのですか。

総務課長 選任委員につきましては、町長の求めに応じるということ、委員の詳しい選任にあたっては、細部で規定を設けるとなっています。

故見崎議員に叙勲

旭日単光章

故見崎清氏は、議会活動を通じて地方自治の発展に大きく寄与された永年の功績が認められ、旭日単光章を受章されました。



敬 弔

鯨ヶ沢町議会議員

故 見崎 清殿 (72)

平成二十七年十一月二十七日死去
謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福を祈ります。

知事を囲む行政懇談会

議長が要望

青森県町村議会議長会主催の「知事を囲む行政懇談会」が11月24日、ホテルクラウンパレス青森(青森市)で開催されました。懇談会では、西北郡を代表して新保議長から知事に対し要望を行いました。その質問内容及び県側の回答を一部抜粋してお知らせします。

◇要望内容

廃校施設の解体費用に係る助成制度について

平成22年にも要望した経緯がありますが、廃校施設の解体費用は、町村にとつて非常に大きな財政負担となることから、その後の進展及び新たな制度があるのかお知らせ願います。

なっていることは承知しています。廃校施設の解体経費は、

事案等によって異なりますが、地方債の活用が可能となっています。また、転用に要する経費は、体験学習施設など、転用後の施設種別に応じて、関係省庁の補助制度があります。いずれもご相談いただければと思います。



新保 勝敏議長

◇回答

県教育庁教育長

近年、少子化に伴い学校の統廃合が進み、町村では、廃校施設の解体等に要する経費が課題と

全国施設主管課長協議会を通じて、補助制度の創設について国に働きかけを行っているところであります。

平成27年度都道府県議会議員及び市町村議会議員 総務大臣感謝状贈呈式

坂牛議員代表で受領

平成27年10月16日、ホテルポール麹町(東京都)において「平成27年度都道府県議会議員及び市町村議会議員総務大臣感謝状贈呈式」が行われました。

これは、地方議会議員として35年以上在職し、地方自治の発展に功労があった者に対して、総務大臣から感謝状が贈呈されるもので、平成27年度は地方議会議員50名(都道府県議会議員1名、市議会議員23名、町村議会議員26名)に贈呈が行われました。

式典では、高市早苗総務大臣代理の土屋正忠総務副大臣が式辞を述べた後、土屋正忠総務副大臣から都道府県議会議員、市議会議員及び町村議会議員の代表者にそれぞれ感謝状と記念品が授与されました。



総務大臣感謝状を授与される坂牛議員

町村議会議員の代表者として、坂牛淳治・青森県鯉ヶ沢町議会議員が務めました。

その後、来賓として臨席された清水庄平全国市長会行政委員会委員長、飯田徳昭全国町村議会議長会会長から祝辞が述べられた後、来賓の紹介並びに祝電の披露がありました。最後に、地方議会議員代表の宮内雪夫長崎県議会議員から謝辞が述べられました。

鯉ヶ沢町議会議員一般選挙

投票日は3月27日(日)

任期満了に伴う鯉ヶ沢町議会議員選挙が行われます。定数は12人。告示日は3月22日(火)。

◆投票できる方

①日本国民で、年齢20歳以上の方(平成8年3月28日以前に生まれた方)。

②告示日の前日(3月21日)まで引き続き三ヶ月以上、鯉ヶ沢町に住所を有する方(平成27年12月21日以前に住民票作成または転入届けをした方)。

◆期日前投票及び不在者投票

投票日当日、仕事、レジャー、冠婚葬祭などにより投票所において投票できない方。

・期間 3月23日～26日
・時間 午前8時30分～午後8時
・場所 中央公民館 講習室

遠方にいる方は、郵便による不在者投票の請求ができます。詳しくは、(72) 21111内線397へお尋ね下さい。

一般質問とは、定例会において町政における一般事務について質問したり施策の提言をしたりすることです。今定例会では4人の議員が一般質問を行いました。



鶴田 悦子議員

中村川の氾濫防止に係る対策は 答へ土砂浚渫・調整機能施設の整備を要望

中村川の氾濫防止 対策は

を浚渫しないと上流を拡幅したりポンプで汲み上げて追いつきません。中村川は県の管理ですが、被害を受けるのは鱒ヶ沢町民ですので、町としての対策を考えられないか伺います。

問・水害問題についてお聞きします。鱒ヶ沢町には三本の川、中村川、赤石川、鳴沢川があります。赤石川は昭和20年3月22日の大震災以後、川の改修工事により水害の心配は薄らいでいます。鳴沢川は、雪崩によるダムアップでも起こらない限り災害の心配は考えられないと思います。

問題なのは、鱒ヶ沢の水害といえば中村川という状況です。中村川の氾濫により、舞戸地域の河川付近では、床上床下浸水といった水害を受けていますが、それへの対応手立ても様々なされています。

河口では土砂が積もって川幅が狭くなり、土砂

問・調整機能施設、ダム

き掛けていく予定です。

同時に調整機能施設に着

りますし、以前にも県で

と思います。

町は今後も県と連携しながら、改修工事の早期完成と増水時に対応できるように調整機能施設の整備など、地域住民が安心、安全に生活できるように関係機関に積極的に働き掛けていく予定です。

貯水池、導水路の三つの問題について、何年ぐらいの予定で県では計画しているでしょうか。

これまで土砂の浚渫などを含めて町長が陳情してきましたが、口頭ではなく正式に要望書というかたちを持って県に対して要望して参ります。

舞戸の河川改修工事が終わる前から動いて、少なくとも河川改修工事が終わると同時に着手したいと考えています。

県の方でも舞戸の改修工事を進めながら、河口部分に対して土砂が溜まるたびに浚渫するといったことの繰り返しではないのか、あるいは抜本的な工事が必要なことは検討しているということでしょうか。

河口付近の土砂については、町長も幾度となく県に要望しています。河川を管理する鱒ヶ沢道路河川事務所、突堤を建設、管理する西北地方漁港漁場整備事務所等も状況把握し対応は考えているということでした。

県の意向は、一年でも早く河口部の改修工事を完了させたいということですが、土砂の浚渫についても町長が前から県のほうに要望はしております。

そうすると20年、30年という声も聞いています。大体何年かかるかも目途がつかないのですか。

それらも含めて、毎年県の方に要望し、調整機能施設は別建てで県の方に要望していく考えです。

最近ではわかりませんが、何年前かに中村川の増水で騒ぎがあった時点で浚渫しているはずですが、県でも現場の状況はわかっていますので、改めて町としても県へ強力にお願いする気持ちです。

答弁・建設課長

答弁・副町長

答弁・副町長

答弁・副町長

答弁・副町長

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。

町民はいつまでも土砂の浚渫を希望して参ります。



長谷川統一議員

地域内商品券を継続する考えは 答へ関係機関との連携により検討

町表彰を見直す考えは

問・今年も11月23日に
鱈ヶ沢町表彰式が行われ、
地方自治や文化、スポー
ツなどの功績に対して表
彰するものです。

表彰は、町表彰規程に
則って行われていますが、
一度各賞を受賞した人は
その受賞対象から外れる
仕組みになっています。
毎年頑張つて成績を収め
ている人の活躍が町民の
耳に入らないわけです。

町表彰規程を見直す必
要があると思いますが、
町ではどのように考えて
いるかお答え願います。

答弁・総務課長

町には、特別功労章、
功労章、文化章、スポー
ツ章等があります。スポー
ツ章について説明し
ますと、輝かしい受賞と
いう観点から、毎年度贈

呈というのはいかがでしょうか
う趣旨に則り、一度受賞
した人は現在の規則では
1回限りとしているのが
実情です。

ただし、スポーツ章受
章後に全国レベルでスポー
ツ章以上の顕著な成績を
収めた者については、平成
12年度に内規規程を設け
てスポーツ特別章を贈る
など、その功績をたたえ
る措置を行っています。

以前は中学生、高校生、
大学生、社会人と年代別
に限り受賞規程を設けた
時期もありますので、今
後は内部で協議し、必要
な時期に審査委員に諮る
ことも考えて検討したい
と思っております。

問・町表彰者の選考は、
選考委員会を組織し行っ
ていると聞きますが、優
秀な成績を収めても表彰
から外れたという例も聞
きます。

町ではどのように表彰
対象者を把握しているの
かお答え願います。

答弁・総務課長

現在は、役場各課、管
内の小中学校、高校、公
共的団体等のほか、管外
近隣の高校、町体育協会
や文化振興連絡協議会等
へ推薦をお願いしていま
す。町も鱈ヶ沢町にゆか
りのある方の功績を確認
するなど、関係機関に対
して積極的に促し対象者
の把握に努めています。

今後は、町民からも広
く情報提供を求めするため、
町広報紙やホームページ
の利用、町議会議員や審
査会からも情報提供をお
願いするといった媒体、
メディア等を活用して更
なる掘り起こしに努めた
いと考えています。

地域内商品券の町
経済効果は

問・今年度、国の地方創
生事業の一環でプレミア
ム商品券が全国的に発売
になりました。当町も1
億6000万強の発行が
あり、景気低迷している
町の経済には非常に効果
的と考えられます。

町としては、商品券の
効果をどのように考えて
いるかお答え願います。

答弁・観光商工課長
プレミアム付き商品券
は、総額で1億6153
万2000円を発行し、
食品、総合スーパーやド
ラックストア、燃料店や
自動車小売、修理業など
5業種が上位となり、全
体では42業種で利用され
ています。このような状
況から、プレミアム付き
商品券の発行により消費
意欲が向上し、町経済の
効果も格段に向上してい
ると考えられます。

問・来年度以降、商品券

を町独自で行う考えはあ
るのかお答え願います。

答弁・観光商工課長

地域内商品券は、消費
意欲の向上の足掛かりと
して即効性のある有効な
手段と考えています。

地域経済の活性化を考
えると、継続的に行うこ
とがより大きな効果が生
まれると確信しています
ので、今回の結果を踏ま
え、商工会と連携しなが
ら検討して参りたいと考
えています。

問・プレミアム付き商品
券は、町経済に効果が
あったというデータもあ
りますが、町長の考えを
お伺いしたいと思います。

答弁・町長

継続できれば一番いい
が、各課の予算状況を確認
し、財政と検討してい
きたいと思っております。

町住宅環境の計画は

問・安定した住宅環境を
考える時、地域コミュニ
ティの観点からも人口減
少の歯止めの観点からも
対策が必要であり、住宅

環境の整備計画が急務と
思うが、町の考えをお答
え願います。

答弁・政策推進課長

町の住宅整備計画は、
低所得者を対象とした町
営住宅のみで、その外に
計画がないのが実情です。
人口が減少し高齢化も
進む中、若者等の町外流
出を防ぎ、町外から若者
等呼び込む定住促進の
面、高齢者福祉の面でも
住宅という切り口で戦略
を持つことが必要だと考
えます。

住宅整備は、相当な
財政負担を伴いますの
で、人口推計や社会趨勢
を見ながら、長期的な視
点で定める必要がありま
す。同時に短期的な視点
ハードやソフト面を含め
た構想や計画を早期に作
れるよう検討していきたい
と思っております。

また、空き家の利活用
は、建物の状況や所有者
の把握、意思確認が必要
と考えており、手法など
について検討する時間が
必要と考えています。



一戸千代久議員

子どもの発達障害の支援対策は 答へ一人一人のニーズに応じた適切な支援

発達障害について

問・発達障害の子どもは、40人クラスの中に二、三人はいるとされ、通常学級に通う小中学生の6.5%が発達障害の可能性があると文部科学省の調査で推計されています。発達障害児の4割が何らかの対策も講じられず放置されているそうです。

発達障害の重要な対策は早期に見出すことです。発見を早くし、幼少期から特性に応じた訓練をすることで、社会性を身につけることができるかとされています。

障害者を特別なものと捉えず、地域、保護者、保育所、教育機関が一体となって障害児に理解を示し、相談や話しやすい環境づくりが必要だと思います。

障害児の中には、ある分野に高い能力を出す子どももいるそうです。欠点を直すだけでなく、できるところを伸ばすことが大切だという先生もいます。

子どもの発達障害を早く調査し、支援事業を進めていくことが必要に思いますが、当町における子どもの発達障害を調査していますか。

答弁・教育課長

当町の子ども発達障害については特に調査しておりません。

3歳児健診の時に子どもの言葉、情緒、身体発達遅れなどに不安がある保護者の相談に応じております。

こども園及び保育所では、気になる子どもについて保健師と連携を図り成長を見守っています。幼児期は、子どもの個性

や家庭環境の問題による発達おくれなど、年齢的に発達障害とは言い切れない子どもがいるため慎重に対応し、場合によっては保護者へ連絡し、医師の診断を勧めるなどをしていきます。

小学校へ入学する前には健診を実施し、発達障害が疑われる子どもについては学校や保育所関係、保健師などで構成する就学指導委員会を開催し、一人一人のニーズに応じた適切な支援を行っております。

問・疑わしいものは調査をしてみる。発達障害の可能性のある子どもは、早い段階から特別な教育しなければならぬが、はっきりと専門家を入れた中で調査の必要性を感じますが、その点はいかがですか。

答弁・教育課長

学校に入学する前の関係ですが、3歳児健診やこども園、保育所からのいろいろな情報があります。

その情報をもとに、就学指導委員会の中で気になる子どもについて検診を行い、普通学級あるいは特殊学級なのかを判断していきませんが、最終的には保護者の意見が一番尊重されます。

外国人旅行者の受け入れ対策は

問・近年、日本を訪れる外国人旅行者が急速に伸びています。

増加の理由は、円安による旅行費の割安感、和食文化等ですが、何と

いっても東南アジアの経済成長にあると思います。中国人による爆買い状況を見るとうらやましく、この恩恵が青森県にも届

いてほしいと思うところですが、多くは東京都が占めています。

問・実際、外国人を呼び込んで実施しますという数字的なものはありますか。

答弁・観光商工課長

今現在、鱈ヶ沢町に入ってきている外国人は昨年度で3938人くらいです。宿泊率は2095人と低いわけですが、台湾からのお客様が結構入ってきています。

来年度の1月下旬には初の中国定期便、青森―杭州便が就航します。また函館空港では、既に杭州便が就航しているほか、台湾のエバー航空会社による定期便も就航していること、3月26日には北海道新幹線が開業することに伴い、函館から入り青森から出て行くというルートも調査しているところとあります。

28年度以降は、外国語のリーフレットやプロモーションビデオの制作、また旅行代理店との連携や通訳ガイドの育成、外国語表示の案内板設置などを考えています。

将来目標としては鱈ヶ沢町に5000人の宿泊を目的に進めています。



今 勝義議員

人口減少について の対策は

問・人口減少対策について質問します。当町の人口が年々減少し、10月末で1万810人です。先6000人ぐらゐの人口になると言われております。

仕事が無いから若者はみんな町から出ていってしまいます。そこで、専門分野の有識者と漁業、農業、商業、工業また観光、林業に携わっている方々の声を聞きながら、循環型のプロジェクトチームを立ち上げてほしいのです。

先日、議員行政視察研修で、岩手県の紫波町に行つて参りました。人口は当町の三倍以上で3万3696人です。

循環型プロジェクトチームの立ち上げを 答へ必要な場面に応じて関係者の参画を検討

紫波町は、公民連携の

手法により、町財政負担を最小限に抑え、民間の自由な発想により事業を進めていくもので、紫波

中央駅前都市整備事業の一端をオガールプロジェクトと称して開発に取り組んでいます。町の中心部が賑わう仕組み、町全体に経済活動が波及する仕組みを民間のアイデアを用いて持続的に発展

するまちを目指しています。命の循環を目標に、百年後の子ども達が豊かな心で、紫波町の自然と文化、環境を残し伝えることを目標として、新世紀未来宣言を発し、環境型のまちづくりにも一生懸命取り組んでおります。

また当町ではコミュニティバスを立ち上げようとしています。雇用を促進する上でも、町民に運転手を任せてみてはどう

でしょうか。私は、町民

がリーダーシップをとつて一生懸命やったら必ずできると思っています。

そして循環型のまちづくりプロジェクトチームをつくり、様々な角度から見聞し、どうすれば雇用を持たせることができるのか、また人口減少に歯止めをかけることができな

いのかということを考えてほしいと思っております。当町の環境は海、山、川ありすばらしいところだと思ひます。深浦町に負けないぐらゐのまちづくりプロジェクトチームを立ち上げていただく気はないか伺ひたいします。

答弁・副町長
プロジェクトチームに對して、趣旨が合うかわかりませんが、いま地方創生会議において総合戦

略の素案ができました。

この計画は、地方創生管理ということで町内の表立った産官学金の人た

ちが委員となり、各立場から現状と課題そして次の打つべき一手などの意見をもちて検討し、結果として素案ができたというところであります。地方創生だからあるいは人口減少対策だからだ

という形で、プロジェクトチームを作るのではなくて、産官学で入っている推進会議等により継続していくということ、もう一つは総合計画を実施、移す、検証する、見直しするなど最初の段階でかわつた推進メンバーも入つてもらふこと、庁内各課でも事業項目について

はチームを作つて動いていくということですから、プロジェクトチームとかワーキンググループ

といつてつくつても混乱する場合があります。とで考えております。

必要な場面があれば改めて町民の方、あるいは産官学の参画を求めて検討していくということと考えております。

問・一昨年も私は鱈ヶ沢の地場産品、すばらしい食材を町内ばかりでなく、日本全国に発送できるような方向性にできないものかなど、プロジェクトチームを作つて事業を展開できないかと質問をいたしました。

町長がリーダーシップを取りながら循環型のプロジェクトチームを作り、鱈ヶ沢町の雇用促進を図るためにも、町の産業に携わる方々の声を聞きながらすばらしいものをこの鱈ヶ沢町で生み出していかなければと思ひます。

隣町でも新しい産業に向けて研究をしております。鱈ヶ沢町でもいろいろな方向性や可能性を視野に、関係機関の力を借りながら進めて行くべき

ではないかと思ひますが、いかがですか。

答弁・町長
人口減少を抑える要因

としては雇用問題もあり、町の基幹産業を生かすためにもプロジェクトチームを作り、私がトップになつて取り組むこともいいが関係機関等のこともあり難しいところではあります。

また雇用に係るコミュニケーションバスの件についても、町民に任せればいいのかというところでありましたが、免許や許可の関係などから難しい問題も多々あることで、これもプロジェクトチームを作つて対応という問題ではないと思ひます。

現在、財政的にも非常に厳しい状態にあるわけですから、でもこのままの状態ではただ黙つていてはいいかなということですので、それらを検討しながら更に取り組んでいきたいと思つておりますのでご理解していただければと思ひます。

議会改革へ 向けて

町民の感想・意見

▼夜間傍聴では、昼の議会に比べ非常に緊張感があり、議場の雰囲気良かった。

▼質問への答弁をもう少し簡潔にして頂きたい。

▼議場の照明が少し暗い。

▼初めて傍聴し議会への興味が高まった。議会広報を読むだけではわからない町政の方向性が見え

たような気がした。質問が短ければ議論も深まるように感じ、長すぎると本当に重要なところが論じられない気がした。

▼傍聴の機会として、夜間議会はいいと思えました。

▼3月、6月、9月、12月議会を夜間にする。

▼実に良かった、是非続けてほしい。質問に対する回答が不備と感じ、また再質問の際には、個人名でなく番号で指示するのは違和感を覚えた。

▼日中とは違い満席状態やはり夜間議会はいいと思えます。

▼初めて傍聴し、議員は自分の得意とするところ、関心のあることを質問しているのか、町民の意見をどのように把握しているのか疑問に思った。職員は答弁に具体性がなかった。

▼機会があればまた傍聴したいと思えます。

▼地方創生事業などの内容が議会傍聴でわかることができた。

▼自分とは関わりのない町の問題について広く知ることができ勉強になった。議員と答弁者のやり取りの内容に違和感を感じ

る点もあり、町民が広く傍聴することにより、議員や町当局に対する関心、要望が高まり、町づくりへの意識も高まってくるのではと感じた。

▼日中に傍聴できない方を考えると夜間議会は大変いいことだと思う。年1回くらいを予定し、寒い時期11月から3月までは除外するなど、季節的に考慮した時期がいいと思う。

▼各議員の持ち時間にバラつきがあり、時間を有効に使用するよう質問事項をよく研究してほしい。

▼夜間議会のPR等がもっと欲しい。

▼議会に上がったことを実行してほしいと思う。結果が出てこなかったり、同じ繰り返しのように思います。

▼議会の様子を町ホームページで見えるようにしたり、意見等を受け付けできるようにしてはどうか。

▼議員の質問には、当町の実態ではなく、一般的な世間の話題に対するものがあると感じ、当町に直接関係する内容の議論が中心になればいいと思う。時間と労力がもったいない。

▼冬は大変なのでスクーターバスの待合所がほしい。

▼今回のように町民を引き込む新たな取り組みを期待します。

町職員の感想・意見

▼傍聴していた町民の層も違っていたので、開か

れた議会という視点からすると、若干意義があったと思われず。今後も傍聴に来てもらえるような体制を整えることも大切と思った。また様々な開催形態(土日の日中開催、インターネット中継等)を試してみてもいいと思えました。

▼大変勉強になりました。行政と議会が議論することは、町発展のために大切だと改めて感じましたが、町が重点的に取り組んでいる事業や前向きに検討が必要な事案についての質問をしてほしいと感じた。夜間議会の実施で賛否はあると思いますが、改善を要する箇所を修正しながら、今後数回は実施してもいいと思う。全国的にも実施している自治体も多いインターネットのライブ中継や傍聴席以外で傍聴可能な場所を設けるなど新しいスタイルに取り組んでほしい。何よりも町民の興味が薄い議会では成果が見られないので、これまで

以上に行政と議会の連携強化が必要だと感じた。

▼夜間議会には若い方の傍聴があったので、今後町民の議会傍聴機会の拡大のために続けてほしい。また、夜間だけでなくいろんな日時での実施や選挙制度の変更もあることから、中高校生の議会傍聴を行い、政治に関心を持てるような取り組みに期待します。

▼とても勉強になった。開始時間も良かったが、言動や振る舞いなどを重んじ、品位を感じさせる議会であってほしい。

▼議会改革の一環として行われた本施策は大変良かった。傍聴した町民も多く感じ、日程の調整や決定などには困難があると思えますが、更なる議会改革を期待します。

▼夜間ということで、時間を気にせず質問に対して議論することを望む。また、一般質問通告と違う質問や議会にふさわしくない内容が増えているように感じた。

四年間を振り返って

《広報編集委員会》



議会広報サポーター 芳野政明氏の講演

議会広報編集委員として早や四年。今回の議会広報紙発行で任期満了になります。

いくらかでも読みやすく、わかりやすい広報の編集を目指してきましたが、果たして町民の皆さんはどんな評価をしてくれるのか。

道で会う人、会合などで会う人の話の中で、議会広報を見るのが楽しみ、町の動きがよくわかるなど広報に目を通して賛意を表してくださる方も多く、大変嬉しく思い心から感謝申し上げます。私たちの日常生活と役場や議会の動きとは、ま

さに切っても切れない関係にあることは言うまでもありません。

福祉的なこと、衛生的なこと、建設・水道のこと、各種証明書関係など様々なことが役場を経由しています。その事務事業に要する費用は、私たち住民が税金として納め、不足分は国からの交付金や事業に応じた補助金というかたちで町に入ります。その税金・交付金などが偏りなく、公平公正に使用されるよう住民の目となって注視し、議論を深め判断していくのが議会の役目でもあります。

住民の中には、議会を町長の諮問機関のように見ている人もいるかも知れませんが決してそうではありません。町長と議会は、互いに牽制、均衡を図りながら住民に対して共に責任を負う対等の機関であります。町長には予算の提案権があることで、住民の要望にも直ちに応えていけるわけ

です。



広報研修会に参加の各町村議員、事務局

です。

これは、行政側と議会側との役割及び状況について議会広報紙を読まれる方に、双方の実態を知っていただくために記したことをご了承願います。

議会広報は、住民と議会を繋ぐ大切なものだとして、議員の手で編集し発行するべきであるという観点から、毎年実施される青森県町村議会議長会主催の広報研修会にも参加しています。議会広報作りの専門講師からは、広報編集の基本や参加町村議会が発行している広報紙を見て具

体的な指導を受け、住民にとってわかりやすく、見やすい広報の編集が大切であると指導されます。さらに、広報を活用して議事を公開し、議会への関心と住民参加をはかり、ひいては広報の充実が議会改革を促し、「開かれた議会」へつながり、自治体情報の主役になるということでもありました。

毎回試行錯誤しながら限られたページ数で議会の状況を詳しく町民へ報告できるのか、どのようなにすれば町民の皆さんに読んでもらえるのか、委員一同で頑張っ



広報編集委員会 (左から) 一戸委員、鶴田委員長、長谷川委員

まいりました。まだまだ改善点はありますが、次期の広報編集委員に期待したいと思います。今後とも議会広報紙をよろしくお願い申し上げます。四年間ありがとうございました。〈広報編集委員長 鶴田 悦子〉